

第二回根室市創生有識者会議議事録（概要）

日時 平成27年6月29日（月）午後4時45分
場所 根室市総合文化会館 2階特別会議室

1. 開会

（事務局）開会

2. 市長挨拶

本日の議事は、審議事項として前回一部作業中であった項目や各種市民意識調査の結果を反映させた、本市の人口ビジョンを審議していただきます。

また、討議事項といたしまして人口ビジョンの次の段階となります根室市創生総合戦略骨子案についての意見交換をさせていただきます。

本日の有識者会議も前回と同様、委員の皆様と有意義な意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 審議事項 根室市人口ビジョン（案）についての説明

（事務局：川崎） 市民意識調査の概略集計の説明

（事務局：小坂） 根室市人口ビジョン（案）の説明

4. 議事

（米満委員）石井先生にお知恵を借りたいと思います。サケマス流し網漁が来年から禁止されることになり、影響額も250億円くらいと言われている。この影響を人口ビジョンに反映させる必要があるかどうか。流し網が行われてきた昨年までにおいても、すでに人口が減ってきていることから、こうした短期的な影響と人口ビジョンのような長期的な出生率の低下というのは分けて考えないといけないのかと思うのですが、先生いかがでしょうか。

（石井委員）短期的な影響だけに目を奪われるのは、ミスリードする側面があると思う。流し網の影響というのは、私もよくわからないが、影響額は大きいという側面があるとして、実態としてどれだけ高い所得をもたらす業なのかという側面も重要である。実質的にはお金を支払って操業するということから、そもそも非常に厳しい業としての成り立ちの部分もあると思う。そういう意味では、雇用を持続的に支えるということが難しいという側面ももしかしたらもっているのかと思う。

むしろ長期的な視点で、食べていける雇用をどうキープするかという視点の議論を組み立てる必要があると思う。もちろん、影響がないというようなことをいうわけではございませんが、未来に向けての話をどう見据えるかという点に主眼を置かないと、ここでの議論も成り立たないのではないかと思います。

(蓑島委員) 高校生アンケートの結果で進学希望者のうち根室市内で就業を希望している生徒が約1割ということだが、これが現実の数字である。

生徒が広い視野で学ば学ばほど、外へ出ていこうとする。これは抑えられないことだと我々は思っているが、その中で、地域理解教育を進め、また地域に戻って頑張るぞという生徒を育成することも必要と思っている。

今、根室にいる高校生をどれだけ戻すかという視点も必要ではあるが、まったく違う地域からここに呼び込む方策の方が現実的なのかなと思う。

(本間委員) ロシア 200 海里内のサケマスの禁止の影響は、今説明のあったデータよりも、実際は3割から4割は減少するのではないと最悪の状況を感じている。次回は、そういう状況を踏まえて補正された方がいいと思う。

今、蓑島先生からお話があったように、まったく違う地域から呼び込むということを真剣に考えた方がいいと思う。アンケート結果で食べ物が美味しいというのが第1位となっていたが、食べ物が美味しいというのは、「売り」ではあるが、これが機能していない。観光で根室に来てそのまま帰ってしまうという非定着型の、一回行けばいいやというような感じになっているのではないかなと思う。

島根県海士町では1年間ただ同然で住んでもらって、島の魅力を1つ見出してもらおうというやり方を行っている。その結果、今、350人くらい増えている。

先ほど人口減少をどう抑えるのかというより、攻めの戦略でここに人口を呼び込むためにはどうしたらいいのかということテーマにした方がいいのではないかなと思う。

前回、朝の話をしたが、根室は、朝3時には日が昇る。この朝の時間というのが果たして活かされているのか。「ゆう活」のような午後3時には帰って自分のやりたいことができる。あるいは「あさ活」で、朝にはイトウを釣りにいって、10時から働いて6時半までやるというような、働き方のフレキシブルというようなことを売りにして、太陽が一番早く昇るまちらしいライフスタイルというものを売りにして、それに向かっていろいろな施策を固めていくというようなやり方ができればと思う。

(廣田委員) 根室に水揚げされるサケマスの8割は、ロシア 200 海里内に依存している。ですから、ロシア 200 海里内の操業が今までどおりできなくなると、基幹産業といわれる漁業も、水産加工業も相当深刻な影響を受けるだろうと考える。

現在、私どもの会社の従業員 120 名近くのうち、20名はベトナムからの実習生である。ハローワークを通した求人とか、新卒の採用だけでは足りないため、外国人に頼らざるを得ないというのが実情である。

そのほか、従来から女工さんと言われている人たちが60人。この人たちの平均年齢は、58とか60歳くらいで、60歳以上が35人おり、この先5年、10年で退職していく。しかも、その補充が望めないというのが現状であり、非常に将来に対して不安を感じている。

(平賀委員) 私たちの幼稚園には、今、66世帯の父兄がおり、そのうちの40世帯の母親が働いている。それらの方々の中にはもっと仕事がしたいと思っている方もいますが、本当はもっと子どもを産みたいと思っている保護者の方が多いのが現状である。そこで足踏みしてしまう問題は、経済的な理由だけでなく、根室市で出産できないというのが、一番の不安材

料となっている。

子どもたちが雨でも、寒くても遊べる、例えば、中標津の夢の森公園のような公園がないということで、保護者の方たちは時間をかけて、別海や中標津に子どもたちを連れてでかけていることが多いのが現状である。

そのほか、保育サービスの充実というところでは、病児保育、一時預かり、保育ママといった制度を市で立ち上げていただきたい。仕事中に学校から病気なので迎えに来てくれといわれた時など困っている親も居るということを知ってもらいたい。

今、支援を必要としている子どもが多くなっている。高等養護学校、また、支援学校といったものを根室市に作っていただけると学校の先生や養護の先生が根室市に入ってくるということにもなるのではないか。中学校を出たら、わざわざ中標津までお子さんを出しているという方もいることを知ってもらいたい。

(濱松委員) 日本全国で人口が減っている中で、根室市だけ維持するということはできない。人口ビジョンをどの時点でとらまえるかということになる。2015年から2060年までの45年間というのは、長い印象を受ける。

例えば、25年後をどうするかとか、初めから45年後を設定するのはどうか。公共施設を維持するのもこんなに長くないのではないか。我々漁協でも将来を検討する際には、10年とか15年であり、3年くらいで見直しをしていく。はじめから、長いスパンを目指していくのはどうかと思う。

(濱田委員) 例えば、根室市の労働者の数が、横ばいだとするならば、年金の支給年齢が引き上げられることによって、60歳で支給されたものが、引き続き働かなければならなくなった場合に、その人たちが働き続けると、今度は若い人たちが働く場所がなくなるというような現象が生じる。そこで市から出ていくという悪循環が続く中で、さらに人口が減少していく中では、産業が続けられなくなるといった現象がでてくるということもあると思う。

朝方勤務のことですが、世の中全体がそれでやっていかない限り回っていかないと思う。根室で働く人や児童や生徒が、どの時間帯で活動しているのかということを考えなければならないし、様々な要件を加味してどういう手当が根室でできるのかということをもう少し時間をかけて考えないといけないのではないか。

(萩野委員) 国が今観光立国を進めているが、もともとの考え方は、人口減少を、外国人で補おうというものである。この考え方を根室の活性化に活用しない手はないかなと思う。

定住人口が減った分を交流人口で補うといった視点が重要ではないかと思う。特に、今回の地方創生戦略においては観光振興というのが非常に重要な位置を占めているので、根室がどういう観光戦略を描くのかということが重要と思う。

国は現在1,300万人の外国人を2020年には2,000万人に、道でも現在、130万人の外国人を300万人にしようとしている。日本国内における外国人の消費は2兆円から4兆円になる。これをなんとか根室エリアに呼び込んで、新たな経済波及を起こせないか、という観点で、新たな産業を興し、雇用をつくるという仕組みが必要である。

(伊藤委員)先ほどの結論でも説明のあったように人口減少をいかに抑制するかということになるのはしょうがない。先ほどもでていましたが、定住人口が減るわけですから、なんらかの形で交流人口を増やすしかない。

隠岐の海士町の話がでていたが、町長の話では、町の財政が赤字の中で、なんとか大阪あたりの夫婦、子どもたちを受け入れるなどのIターンを進めてきた結果、200家庭くらいが入ってきた。その結果、今では海士町の高校に生徒がどんどん来るそうである。ひとつはそういうIターンを受け入れるという方法がないものか。

市営住宅や道営住宅などの空き住宅を活用して家族ぐるみのIターンを受入するか、あるいは、最近、大阪とか東京とかの人が避暑のために釧路辺りに来て古民家に拠点を構えて一カ月とか二カ月にわたって避暑をするというケースもでてきている。こういう長期滞在を進める方向を考えざるを得ないと思う。

核家族化になってきて、今の若い人に子どもができたとしても有効な手当てを打てない。保育所が少ないといった課題に対して、高齢者がフォローしてあげると若い二人が共稼ぎすることもできるようになる。そういうようにいろいろな方法を取り入れる必要があると思う。

歯舞は小さい漁村だが、それ相応の生産額をあげ、組合員数も多い。こうした漁村が寂れると、根室市を支える立場ではなくなるので、われわれも落石もマリンビジョンという計画を立てて地域の催事とか、ブランド化の取組みをするとか、中学生や高校生にも来てもらって漁業体験をしてもらって、漁業の楽しさを知ってもらうことで、都会から人を呼び込んだ中で活性化させようとして取り組んでいる。

私たち地元の企業として、できれば根室高校とかからの採用計画も立てたいので、地元で働きたいという生徒さんがいるのであればそういう問題にも着手していきたいと思っている。私どもの組合も100名以上の従業員がいるわけですが、入れ替え時期にもあるので、若い人たちを入れていきながら仕事を回していくことが重要と思っている。

(宇井委員)私どもの活動は、障がいのあるお子さんの放課後の教室をイメージしていただければと思う。

200海里問題の時もその後10年経ってからのいろいろなことが大変だった。今回のサケマス流し網の件も今後、さらに大変になる中で、このビジョンは流し網問題の前に推計しているので、前向きにみる必要はあるが、シビアに見てどうなっているかというところも抑える必要がある。

先ほど、45年後という話があったが、それよりも現在暮らしている人たちが豊かに、安心して暮らしていけることが前提ではないかと思う。

アンケートの中にもあったが、安心して出産、分娩ができることが必要である。また、この先ずっと住み続けたいとは思いますが、やはり医療の不安があり、特に団塊の方たちに多いと思う。若い人たちだけでなく、お年寄りも含めた医療の充実が必要である。それは、何年後ということではなくて、今、望まれていることだと思いますので、この1点を強調させていただきたいと思う。

子育て支援では、今年になって少しずつ保育費の支援に着手されてきているが、いかんせん、保育料が非常に高く1歳児になったが、まだ預けられないという家庭も身近にいる。そういうところもさらに充実をお願いしたいと思う。

先ほど全天候型施設の話もでていましたが、そこもお願いしたいところ。

特別支援のお子さんの関係でいいますと、言語療法士さんもない、理学療法士さんもない中で、白糠とか美幌から療法士さんが1年に何回か来ていただいている。根室の高校を卒業した中にも何人もこうした資格を持った方がいるが、根室で受入れがないから帰ってきてても仕事ができないのが現状である。そういう人たちが帰って来られる職場づくりという意味でも重要と思う。

何よりも、医療、福祉、子育ての充実をお願いしたいと思いますし、現状が良くなれば、Uターン、Iターンが進むのではないかと思います。

(岡野委員) 本日はこの人口ビジョンの審議ということで、今の人口を増加させるのか、それとも減少を抑制するのかという点だが、現実的には、減少を抑制する点でいたしかたないのかなと思う。この後、総合戦略で皆さんの意見をくみ取って進めていってもらいたいと思う。

(川前委員) 率直な感想だが、高校生のアンケートから、地元志向が高いということと、親思いの生徒さんが多いという印象を持った。一旦まちを出てもいつか戻って来れるようなまちづくりが長期的には必要だと思う。

高校を出ても根室が好きだと思ってもらえるような若い人を育てていくということがすごく大事だと思う。

もう一点、このまちで出産がなかなか難しいという現状の中で、すでにお子さんを持っている家族の方が子どもさんの教育のために一時でも引っ越して来られるようなまちづくりというものがあるかと思う。このためには、小中一貫教育、あるいは連携をすることによって、特色のある教育システムづくりも同時に打ち出す必要があると思う。

家族を持っている方が根室に来て仕事に就くという環境を整えればいいのかなと思う。

(神内委員) 31 ページですが、3次産業小売事業所の数が減っていますが、無店舗小売が少し増えているが、この部分に何か考えられることはないのかなと思います。ここで何かをしているのか知りたい。

12、13 ページですが、沖縄と羅臼の転入―転出が増えているというのは何かあるのか。こういうところに何かヒントがないか。減っているだけでなく、増えている部分が何かを知ることが必要なかなと思う。

(杉木委員) 資料の中で出産、子育てをするための条件や、根室に住んでみたいと思う条件で、医療環境の充実をかなりの方があげている状況にある。しかし、医療が充実している大都市でも人口が減少してきているということなので、医療を充実させれば人口減少を食い止められるか疑問に思う。

政府の医療費抑制政策の関係で、医師や看護師の数がコントロールされている、なおかつ、医療費が削減されるので医療従事者の給料が上がらないということがある。そういった中で、人口が減ってくると、医療従事者の数も確実に減ってくる、さらに人口減をもたらすといった悪循環になっていくということだと思う。

結論としては地道に医療従事者を確保していくということと、根室の若い人たちに医療従事者になっていただくという方策を考えていくことが重要だと思う。

先ほど、安心して出産できる環境が大事だという話があったが、安全に出産している方も多いことから、逆に安心して出産ができるということをアピールすることも大事なかなと思う。釧路や中標津から産科の先生を呼んで、こういった点を注意すれば根室でも安心してお産ができるということをアピールすることが必要と思う。

(関委員) サケマスの問題だが、漁業、水産業のほかに、例えば観光とかも含めての影響も非常に大きいと思う。根室市の産業全体の構造の変化として捉えて考えていかないと、ビジョンが現実とかい離れたものになりかねないのではないかと感じた。

定住者を増やすということではなく、交流人口を増やすということを考えることが重要である。根室市の応援団を増やすという考え方があっていいのではないかと、思う。

徳島の小さな集落では、親子で来てもらう漁村留学を行っている。もう 10 数年続いている。卒業したら帰って行くが、そこで暮らしたこと、育ったことというのを覚えていて、何かあった時には行こうということになる。高校生、大学生になって遊びに行くというような交流が繋がっている。そこで新しいビジネスのチャンスも生まれる。地元の産物も東京の店を出したいので提供してほしいというような事例もでてくる。

住んでもらう人を増やすのは、難しいが、応援団を増やすという考え方もあっていいのではないかと、思う。

1 点だけ質問ですが、32 ページのところで、中小企業における若手の定着率が悪いということだが、この離職した若手は外に出ていってしまっているのか。

(事務局) 明確な回答はこのアンケートでもわからないが、転出者のところで 20 歳から 24 歳のところが多くなっていることと、一旦勤めて 20 歳を超えてから辞める方を多くみていることから、推測ではあるが、辞めて外に出て行っている方が相当数いるものと考えている。

(石井委員) まず、32 ページの関係だが、根室の主要産業は漁業、農業だが、どちらも職場環境が厳しい。今の若者気質からいうと、定着しにくい雇用環境で、就業する側とのギャップが大きいという問題がある。これは給料の問題ではなく、所得は高くてもできないという問題がでていないのではないかと、思う。これは、改善をする努力を怠ってきたところの問題があると思う。その辺りを大きく変えていくという努力を地域側からしていかなければいけないと思う。

ギャップがあるということは、もしかしたら若者を残せていたかもしれないというチャンスを失うことになっていたのでないか。求職しても働き手が来ないというのは、給料が安すぎたり、仕事がきつかったりということなので、そこをどう変えるかということテーマとして考える必要があると思う。

同じように子育て環境を整えていく過程においても、保育などについて不定期であったりすることの多い業種であったり、きちんとした給料を出さなければいけない仕事というのは、地方よりも大都市で多いことですが、そこを少しずつ改善することは非常に重要なことだと思う。

高校を出たあと大都市に出ていくわけだが、大都市で厳しい生活環境や職場環境を経験すると、故郷を懐かしく思っただけで戻って来たいと思う方は多いと思う。そういう方が戻って来られる雇用環境というものをちゃんと改善していかなければならないということだと思う。

人口減少の問題については、今までの趨勢を見込んだ推計方法しかない。今までの趨勢というのは根室の場合では一次産業が厳しくてどんどん人口が減ってきたということで、この傾向をそのまま盛り込んで人口が減るという感じになっているわけである。流し網の問題についてもその悪い影響がどんどんできて、それをカバーすることができなければ本当に減りつづけるということだと思う。ただ、それなりの仕事で食べていける人口が見えてきたら、そこからは本当は減らない、定常的なところにいけるという可能性が本来はある。

一次産業は富を外から稼いでこられるという産業なので、あるベースがあったら、どこまでも減り続けるわけではない。そこがどこかというのが、人口予測的に見ていくとなかなかわからない。ひとつひとつの産業のベースとして本当は何人食べていけるかという議論をもう少し詰めると、どこまでも減り続けるわけではなくて、一定の人口は維持できる。どうやったら維持できるかという議論をやっていただくといいと思う。

それと、地域というのは、愛情、愛着というものを持てるような教育が必要である。故郷を懐かしく思える、生活の豊かさを感じることができるという教育も非常に重要ではないかと思う。

教育機会というのが、若者の人口減少の最大の原因であるから、先ほど特色ある教育という話があったが、根室ならではの高等教育機関もあってはいいのではないか。若者をつかむ教育があっていいのではないか、大学というたぐいのものでなくてもいいので、そういうものを考えていかないと若者の定着が図れないのではないかと思う。

かなり多面的に考えていかないといけないと思う。

(市長) 今日の会議では、人口ビジョンを審議いただき、総合戦略骨子案を説明して、次回、来月末に総合戦略を審議いただきたいと考えていました。今日の皆さんのお話は、総合戦略に繋がる内容が多かったように感じています。第9期総合計画の内容にも通じる貴重な話をいただきました。本当にありがとうございました。

今日は、人口ビジョンの45年後の姿、45年後は長すぎるという話もでていましたが、ひとつのスタイルということでご理解いただきたい。

いずれにしても、いろいろなデータ、専門家の意見を聞いて人口ビジョン案を策定しましたが、今日この場で決めたいと思うのですが、いかがでしょうか。

これは、かなり暗い内容ですが、これが現実です。それを克服するために総合戦略を次回から、5年間にやるべき施策を立てるもので、次回、ご審議いただきたいと思います。

人口ビジョンは、45年後ですが、総合戦略骨子案は5年後どういふことをしたいかという内容を審議いただくものです。

今日、この総合戦略を説明する予定でしたが、次回に説明いたします。今度は、事前にお配りいたしますので、次回以降は、いきなり意見を聞くことのないように思っています。

そのように対応していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(同意)

今日は、以上で終了いたします。また、次回よろしく願いいたします。